

## 食品業界が大きく変わるかも！？

### 迫りくる巨大 IT 企業の食事業への参入について ～ソフトバンク、Google、Amazon の今後の戦略と、

### 最新フードテック市場～

株式会社 スペックホルダー

代表取締役社長

大野 泰敬



## 目 次

はじめに .....	1
1. フードテックについて .....	1
(1) フードテックとは何か .....	1
(2) フードテック市場の動向 .....	2
2. ビジネスとしてのフードテック市場 .....	5
(1) 本当にフードテックには最先端技術が必要か .....	5
(2) フードテック市場注目カテゴリー「フードデリバリー」 .....	6
(3) 世界で活躍するフードデリバリー企業 .....	6
(4) フードデリバリー市場が成長するチャンス .....	7
3. 世界の IT 企業の動き .....	11
(1) 大きく変化する世界を見据え、4 兆円以上投資するソフトバンク .....	11
(2) 食の領域に出資する並み居る IT 企業の中でもソフトバンクがすごい理由 .....	12
(3) 生活に必要なさまざまなものを取り込む「スーパーアップ」 .....	12
(4) 「生産から物流、宅配まで」一気通貫でサポート .....	13
(5) ロボット開発・植物工場を支援 「年間 8 億人の犠牲者を助きたい」 .....	13
(6) 巨大 IT 企業参入に向けての既存食品企業のありかた .....	16
最後に .....	17

## はじめに

私は、ソフトバンク株式会社で新規事業などを担当後、「TSUTAYA」を手掛ける CCC に転職、ここでも新規事業に従事した。2008 年にソフトバンクに復帰、当時日本初上陸の iPhone のマーケティング戦略を手掛け、その後インテリジェンス（現パーソル）などで新規事業の責任者として従事。その後独立。上場会社で次々にプロジェクトやサービスを立ち上げるノウハウをベースに、大手企業の新規戦略や事業、広報戦略サポートという 2 つの柱で事業を展開。企業の戦略構築を考える上で、制度設計や組織面の再構築まで含めてのサポートをしている。少人数の社員で大手企業のプロジェクトができるのは、「株式会社 スペックホルダー」がクラウド型カンパニーだからである。チーム編成の選定にビジネス領域での実績や複数の成功体験があり、上場会社での大規模開発の経験やメディアで複数の掲載実績がある人などの基準を設けている。副業やフリーランス、アルバイトなど、さまざまな優秀な人材から、その企業やプロジェクトに一番合う人材を招集する。実績のあるスペシャリストを招集し、共にプロジェクトを遂行している。

本日は、一つ目にフードテックについて。現在どういうものがあるのか、改めてイメージしていただきたい。二つ目が、フードテックの中で最も成長している市場は何かを、数字も交えながらお伝えする。最後に、次々に食の事業に参入をしている世界の IT 企業の動きと具体的な参入市場、今後の動きをご紹介します。

## 1. フードテックについて

### (1) フードテックとは何か

フードテックとは、製品、流通、マーケティングなどの生産から最終消費者に届くまでの一連の流れの中で構成されるエコシステムを指す。その範囲は広範囲であり、主にアグリテック領域、フードサイエンス領域、レストラン領域、デリバリー領域、レコメンド領域、小売領域の 6 つの領域に分けられる。

既存の食品業界からは「食品業界は歴史も古く、なかなか新規参入が難しい。AI などは我々の業界にはあまり関係ない」という話がよく聞かれるが、DX の力により大きくこれが変わろうとしており、世界においてもその傾向が顕著に出ている。「食の領域に異業種が参入しにくい」というのはもう過去の話であり、今までの常識が大きく変わる変革期を迎えていると感じている。

それを証明するかのように、今まで食の領域に参入してこなかった巨大 IT 企業が次々に参入してきている。実は、Google や Amazon あるいは Alibaba やソフトバンクなどの超巨大 IT 企業が、通常の商品会社には想像もつかないような巨額を投じ、食品産業に新規参入しているのだ。食品業界全体に大きな革命が起ころうとしており、驚異的だと感じている。

## (2) フードテック市場の動向

先述の6つの主要フードテックの概要は以下の通りである。(図-1)

図-1



### ①アグリテック

農業の効率化。農業とテクノロジーを組み合わせた造語である。高齢化社会による農業の就業人口の減少化に伴い、テクノロジーを活用し、農業の効率化を図るなど、最新技術で農業の課題を解決していく取り組みがスタートしている。主に「生産管理」や「農業バイオ」、「ドローン/IoT」を利用した生産コントロール、「ブロックチェーン」の構築、「新型ファーム」利用などが現在注目されているカテゴリであり、これらは国でも力を入れて取り組まれている。

#### ・ドローン/IoT 機器

「生産管理」はさまざまな企業が取り組んでいる。ドローンやロボット、センサーなどのIoT機器を活用しながら、データを収集や農作業サポートを行なう。生産自動化や精密農業、ドローンでの農薬散布や収穫のロボット化も始まっている。

#### ・ブロックチェーン

食品供給は、生産・加工・流通・販売の4段階に大きくカテゴライズされていたものが、一気通貫で情報を把握し管理するような仕組みが出始めている。それぞれの生産者、流通経路などを把握し、管理するためのデータを収集し、さまざまな取り組みに活用するという、従来にはない仕組みが徐々に確立されている。

### ②フードサイエンス

安心安全で健康的な、環境に優しい食品作りを目指す動きである。新たな食品の開発、新商品を生産する工程の計画、食品包装の選択、賞味期限研究、パネル調査や想定消費者層を用いた製品に関する官能検査、微生物学的、化学的試験などが含まれる。代替食や完全栄養食、新しい調理用器具やパッケージ等が次々出てきており注目されている。